

## 令和8年度 第1回 教育研究評議会 要録

日時	令和8年4月1日（水）13時00分～14時29分
場所	遠隔会議：第一会議室、各事務室等
出席者	高田学長、三谷理事、中山副学長、山内副学長、宮林副学長、才脇副学長、藤平副学長、吉田文学部長、酒井理学部長、松本生活環境学部長、黒子工学部長、高地人間文化総合科学研究科長、天ヶ瀬評議員、高岡評議員、鍵和田評議員、篠田評議員、岡本評議員、水原評議員、吉田評議員、衣川評議員、高村評議員
欠席者	榊理事長
列席者	青山監事、向総務課長/監査室長、寺本企画課長、川村人事課長、樋口財務課長、金子施設課長、山崎情報課長/学術情報課長、荒堀国際課長、植田研究協力課長、米谷学務課長、角田学生生活課長、蛇持入試課長
議長	高田学長

議事に先立ち、①新しい構成員及び列席者の紹介、②教育研究評議会の関係規則等について確認を行った。

### 審議事項

#### 1. 大学院改組について

高地人間文化総合科学研究科長から、審議資料1により説明があり、審議の結果、専攻をまたぐ学位プログラムを置くことについて酒井理学部長、松本生活環境学部長、天ヶ瀬評議員、水原評議員、高村評議員から懸念が示されたものの、原案をベースに検討を進めることについて承認した。

酒井理学部長から、学位プログラムの「ウィメンズヘルス&イノベーション」及び「デジタルヒューマニティーズ」が両専攻にまたがっていることについて、「公共政策」のように学位プログラムではなく履修プログラムとして横断的に設ければ良いのではないかとの発言があった。また、横断型の学位プログラムについて、入試はどのように実施するのかについて質問があり、中山副学長から、入試については専攻単位で実施することを想定していること、また、専攻をまたぐ学位プログラムは複数の学位に対応し、文理横断型で社会のニーズとも合った魅力的なプログラムを実現するために必要であると考えている旨発言があった。

酒井理学部長から、「ウィメンズヘルス&イノベーション」及び「デジタルヒューマニティーズ」は工学を中心にプランニングしているとのことだが、「協創工学」を含め、工学としてのまとまりがなくなるとの指摘があり、中山副学長から、工学が分散すると懸念についてはこれまでも検討してきたが、工学を一つの塊として置くのではなく、工学担当の教員が化学、情報学及び住環境学など複数のプログラムに参画し、それぞれで工学の学位を出すことができる体制を目指している旨説明があった。

衣川評議員から、修士の学位記には専攻名が記載されるが、学位プログラムが記載されるか否かについて確認するよう依頼があり、中山副学長から、確認する旨発言があった。また、衣川評議員から、専攻をまたぐ履修プログラムについては、専攻が異なれば履修すべき授業も異なるはずであることから、履修プログラムを明確に区別して表記すべきとの意見があり、高田学長から、以前より履修可能な科目の自由度が増しており、履修する科目によって最終的に取得できる学位が決まる仕組みになっているとの説明があった。また、中山副学長から、履修プログラムによって、専門深化型や横断型といったタイプを設けることを想定しているとの説明があった。

高村評議員から、専修系と複合系について今後どのようなようになるのかとの質問があり、中山副学長から、複合系の選択者は非常に少なく、今回の改組において横断型プログラムを設けることでニーズは満たされると考えており、廃止する方向で検討して良いのではないかとの発言があった。

天ヶ瀬評議員から、「ウィメンズヘルス&イノベーション」及び「デジタルヒューマニティーズ」という名称について、例えばウィメンズヘルスは基本的に女性特有の健康問題に関する非常に限定された分野であり心理学及び社会科学は含まれないこと、また、デジタルヒューマニティーズは人文系に軸足があり理工系にはなじみにくいといった問題があるとして、改めて検討する必要がある旨発言があった。これに対し中山副学長から、名称については現時点ではまだ変更可能であり意見を出してほしいとの発言があった。

水原評議員から、「公共政策」の履修プログラムが学位プログラムとなっていないことについて質問が

あり、中山副学長から、対応する教員の調整が付いていないため、履修プログラムとなっている旨説明があった。

吉田評議員から、学生の観点に立てば、履修や学位に注目し、履修プログラムを重視するものと考えられるため、無理に学位プログラムを設ける必要はないのではないかと意見があった。また、酒井理学部長からも、学位プログラムの大括り化の方向で議論してきた経緯や、学生にとってパターンが過度に複雑になることへの懸念から、「ウイメンズヘルス&イノベーション」等は履修プログラムとして設けるにとどめれば良いのではないかと意見があった。

高田学長から、学位プログラムとして設定した方が、学生や学外の者にとって分かりやすく、大学の特徴としやすいこと、また、学位プログラムは大学の裁量により、比較的柔軟に組み替えが可能であることから、今回は専攻をまたぐ新たな枠組みで学位プログラムを構成する点について承認を得たい旨説明があった。あわせて、高田学長から、本会議での議論だけではなく、本会議の構成員とワーキンググループのメンバーとの間で密に情報共有し議論を重ねていきたい、との発言があった。

最後に、高田学長から、授業カリキュラムの改定について、当初予定していた令和9年4月からの実施を延期し、令和10年4月の実施を目指して検討していく旨報告があった。これに対して、酒井理学部長から、令和9年4月からの改定を想定して非常勤講師の削減を行ったため来年度の授業計画に支障が生じるとして、代わりとなる手立てを措置するよう依頼があった。また、大学院改組について、どの部分が学習者本位の改組となっているのかが分からないため、説明の機会を設けるよう依頼があった。

次回、教育研究評議会を令和8年4月15日（水）13時から開催することとして散会